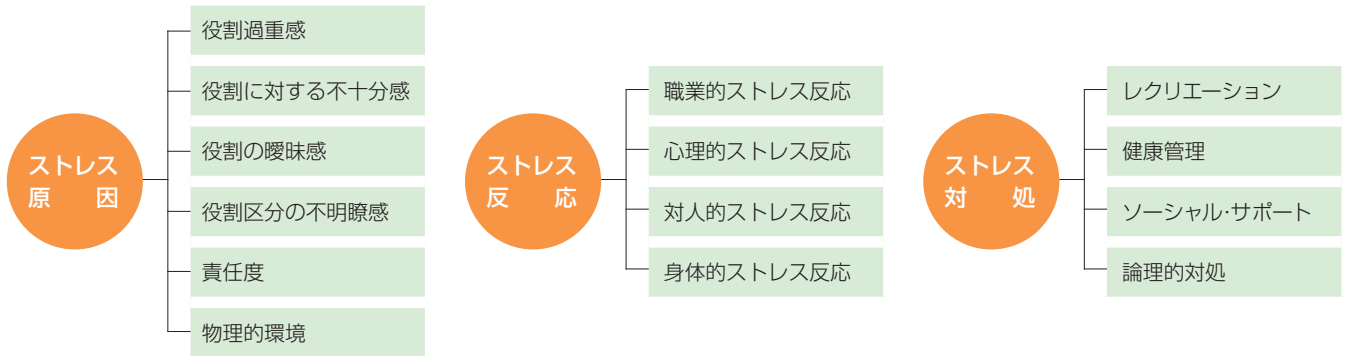
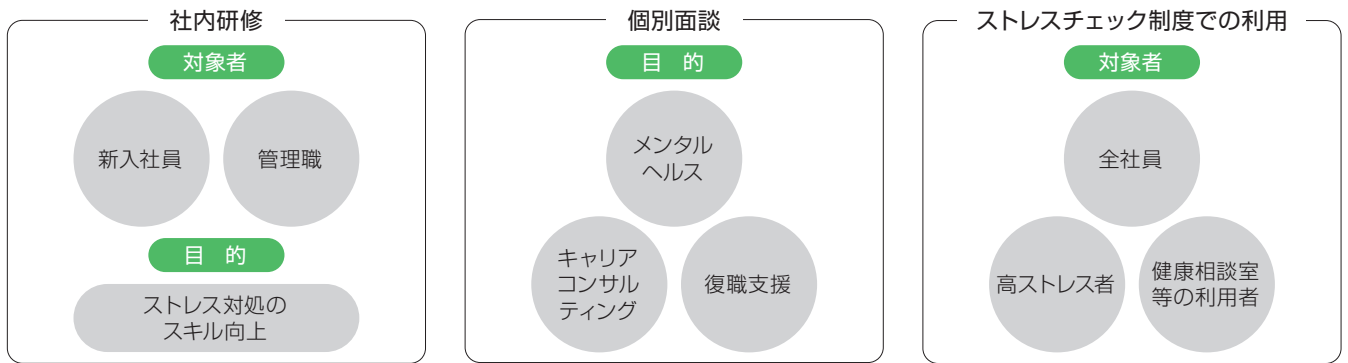


測定されるもの



活用場面



(1) キャリアカウンセリングの立場から、職業人の健康と安寧の維持・増進への援助を目的とする検査をつくること。

(2) わが国には、ストレス反応として心身の症状を医学的な立場から測定するストレス反応検査や、ストレスの原因を個人のパーソナリティに帰する心理検査は多いが、職場環境の中からストレスの原因を見つけ出し、その原因への対処法を診断するストレス検査は少ない。本検査はストレスの影響を

日本版検査の開発のねらい

(岡山大学教授 田中宏二／筑波大学教授 渡辺三枝子)

平成2年から同3年にかけて開発研究第1版による予備的研究を、平成4年から同5年にかけて、開発研究第2版による標準化研究を行い、日本版OSIの信頼性と妥当性を確認し、「職業ストレス検査〔略称OSI〕（標準化版）」の完成に至った。

その後、今日まで、国内の各種学会や国際会議等で日本版OSIの研究発表を行い、各種職場の健康管理実践家や産業・組織心理学研究者から貴重な批評や助言を得てきた。その結果「職業ストレス検査〔略称OSI〕」が、働く人びとのストレス管理や職場改善を援助するツールとして、有効であることに自信をもったのである。本OSIが、積極的に活用され、職業人の健康と福祉に寄与できれば幸いである。



2016No.2

【特集】
OSI職業ストレス検査の生かし方
—メンタルヘルスの向上と不調の予防のために—

▼Webで読めます(無料)



軽減し、自分なりの対処法を身につけるといふ予防的な観点から開発すること。

(3) わが国には、公器として使用できる意味での標準化された総合的なストレス検査が少なく、その開発が望まれること。

(4) 労働が国際化する社会においては、文化間を越えて共通な尺度として使用に耐える検査が要請されており、米国・欧州で広く使用されているOSIストレス検査を、わが国にも適用すること。

(Samuel H. Osipow, Ph. D., Arnold R. Spokane, Ph. D. (原著者)／田中宏二、渡辺三枝子(著者)『OSI職業ストレス検査(第2版)』雇用問題研究会より抜粋／肩書は執筆当時のものです)